

科目名	代謝生化学特論	選択	1単位
-----	---------	----	-----

◎責任教員

担当教員	◎教授 山下 純 教授 横山 和明、准教授 根岸 文子、准教授 濱 弘太郎、講師 佐々木 洋子、講師 林 康広、 助教 松本 直樹、助教 藤原 優子						
開講年度	2021年度	配当年次	1～4年	配当学期	後期	授業方法	講義

授業の概要	薬の作用を正確に理解するためには、その標的の生体分子とその代謝の理解が必須である。特に脂質はエネルギーの貯蔵、生理活性脂質の産生など、様々な生理作用を持ち、炎症や生活習慣病などに関連する。講義では脂質の代謝経路とその調節機構を概説し、様々な病態（生活習慣病、炎症、発癌、遺伝的代謝異常疾患など）との関連を解説する。
授業の到達目標	受講者（大学院生）は ①脂質のエネルギーの貯蔵、生体膜の構成、生理活性脂質の産生など、様々な生理作用を説明できる。 ②脂質の代謝経路とその調節機構を説明できる。 ③脂質代謝の調節破綻と様々な病態（生活習慣病、炎症、発癌、遺伝的代謝異常疾患など）との関連を説明できる。

授業計画	回数	担当者	行動目標
	1	山下 純 教授	生体膜脂質から派生する生理活性脂質、脂質性メディエーターの種類、作用を概説できる
	2	佐々木 洋子 講師	生理活性脂質、脂質性メディエーターの産生に関わる酵素と病態との関連を説明できる
	3	林 康広 講師	生理活性脂質、脂質性メディエーターの産生の基盤となる生体膜リン脂質の合成系について概説できる
	4	松本 直樹 助教	生理活性脂質、脂質性メディエーターの産生に関わる酵素の活性調節機構を説明できる
	5	横山 和明 教授	各脂質クラスの生合成と分解経路および関連疾患について概説できる
	6	濱 弘太郎 准教授	極長鎖脂肪酸の代謝と疾患について説明できる
	7	藤原 優子 助教	糖脂質の代謝と疾患について説明できる
	8	根岸 文子 准教授	中性脂質の合成および分解とエネルギー代謝について説明できる 肥満症の病態とその制御について説明できる

事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	事前学修（予習）：指定された講義内容のキーワードなどを調べ意味を理解しておくこと。（90分） 事後学修（復習）：授業の疑問点をまとめ、次回の授業までに解決しておくこと。レポートとしてまとめる。（120分） 当該期間に30時間程度の予復習が必要となる。
教科書	なし。
参考書	なし。
成績評価の方法および基準	教員の評価により、シラバス等において明示した「授業の到達目標」の達成状況の点検・評価を行います。 レポート（8回）：100%（各講義12.5%×8）
その他履修上の注意事項	レポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。